

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトルジェム2nd		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別性を重視した質の高い支援	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧なアセスメントと定期的な面談によるニーズ把握 個別支援計画を職員間で共有し、統一した支援を実施 子どもの特性や興味に合わせた関わり(例:好きなキャラクター活用) モニタリング(TASP等)による客観的評価の活用 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントツールの複数活用による多面的評価 ケース検討会の質向上(スーパービジョン導入) 支援のエビデンス化(記録→分析→改善の強化)
2	保護者との信頼関係・情報共有の充実	<ul style="list-style-type: none"> HUG・面談・送迎時の会話など多様な手段で情報共有 保護者の意向を計画作成に反映 子育て相談・助言の継続的実施 共感的な対応による安心感の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ペアレントトレーニングの体系的導入 保護者支援プログラムの見える化(年間計画) 家庭との協働支援(ホームプログラムの提供)
3	チーム支援・情報共有の質が高い	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の朝礼で前日の振り返りや当日の支援内容を共有している 支援会議やケース会議、ふせん会議等を通して多職種の視点を取り入れている 日々の気付きや支援内容を職員間でこまめに伝達し、共通理解を図っている サービス提供記録を活用し、誰でも支援状況を把握できるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有の質を高めるためのフォーマット統一(記録・申し送り) ケース検討会の定期化とファシリテーションの強化 支援方針の明文化(支援の軸・統一ルールの整理) ICTツールの活用によるリアルタイム共有の強化

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員配置・人員体制の不安定さ	<ul style="list-style-type: none"> 保育所等訪問支援との兼務による現場人員不足 マンツーマン対応が必要なケース増加 	<ul style="list-style-type: none"> シフト最適化(訪問と児発のバランス調整) 非常勤・補助スタッフの活用 利用児童の特性に応じた配置基準の見直し 業務の効率化(記録・報告の時間確保)
2	研修機会・専門性向上の不足	<ul style="list-style-type: none"> 研修機会が年1回程度と少ない 参加対象が偏る(児発管中心) 日常業務の忙しさによる参加困難 	<ul style="list-style-type: none"> 年間研修計画の策定(必須+選択) 外部研修+内部研修のハイブリッド化 ミニ研修(15分研修など)の導入 eラーニングの活用
3	地域交流・外部連携の弱さ	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民を招く機会がない 保育所等との直接交流機会が少ない 活動が施設内・既存関係に偏り 	<ul style="list-style-type: none"> 地域イベントへの積極参加 他事業所・園との合同活動の企画 地域向け公開イベント(見学会・体験会) SNSを活用した地域発信強化